



浜松営業所 係長 **犀川 和則**

2017年10月、南星キャリアック株式会社にて中途で入社した犀川和則さん。浜松営業所で係長を務めています。運送業界には、前職を含め20年以上携わっているプロフェッショナルです。そんな犀川さんに、これまでの思い出や仕事への思いを聞きました。

— **ご入社のきっかけを教えてください。**

18歳からトラックに乗っていました。21歳で大型免許、23歳でドライバーの免許を取得して全国を走り回っていました。のちに、結婚を機に浜松へ。勤続20年目を迎え、「このままずっと続けていけるのか」と考えた末、転職を決意しました。そんな時に、南星キャリアックスで業務職員を募集していることを知ったのです。自分の力でどこまでやれるか、これまでの経験を活かして、挑戦してみたいと思いました。

面接には、あえて事前にいろいろ調べず、気になるところを直接聞くという気持ちで挑みましたね。すると、聞いたことは全て教えてくれ、「うちはきついよ」とも話してくれました。面接でそんな風にオープンにしてくれるなら信用できる会社だな、と思い入社を決めました。

— **入社されてみて、いかがでしたか。**

面接で心構えができていたので、そこまで驚くことはなかったですね。また、会社は上司が部下を育てるものというイメージがありました。南星キャリアックスでは運転手の方や構内の方、部下が教えてくれます。コミュニケーションも取れていますし、職場の人間関係は良好だと感じています。

— **現在はどのような仕事をされていますか。**

各営業所で変わるとは思いますが、係長としては構内作業全般、点呼後のチェックや、車両関係の点検を担当しています。普段は事務所で仕事をしていますが、構内の作業現場も見ていますね。時には、人手が足りないところのサポートや、運転を行うこともあります。現場にドライバーとして出ている時に、お客様から笑顔で「助かったよ」と言われた時は、嬉しい気持ちになります。

— **これまでで最も印象に残っていることは、どのようなことでしょうか。**

入社1年目に、山奥にある旅館に荷物を届けた時のことです。ゆく道は、雪崩が起きた山道。車が1台しか通れないような細い道で、雪崩でガードレールが壊れている状態です。その日も雪が降っていた。

て、怖い思いをしながら何とか無事に辿り着きました。

荷物を届けた女将さんに話を聞くと、なんと「雪崩に巻き込まれたところがある」というではないですか。ところが「そんなことよりも、寒かったでしょう」と私のことを心配して、山菜蕎麦を作ってくれたのです。美人な女将ということもあり、そのお気持ちもあたたかくて、感謝されたことにこの仕事のやりがいを感じました。

— **では、大変だったお仕事はございますか。**

2019年8月に、工場の機械を新しく入れ替えた時です。大規模な上、時間もない状態で、トラブルも多く、気持ちも落ち着きませんでした。家に帰ってお風呂に入り、またすぐ出勤、というような日が1〜2か月ほど続きました。辛かったですね。

そのような大変な状況の中でも、

上司の方々が支えてくださり、とても助けられました。最近、ようやく落ち着いて来ましたが、今が頑張りどころだと思っています。これから、もっと細かいところを詰めていく段取りです。

— **最後に、ご自身の課題や目標をお聞かせください。**

目標は、「お客様との距離をつめ、信頼を得て、南星キャリアックスだから大丈夫と言ってもらえるようになること」。今期、係長に就任し日が浅いですが、まだ仕事に不安があるのが、正直なところです。現場と事務所の上司の間に挟まれているので、声を出すことの難しさがあり、その積極性が自分には足りないとも感じています。とはいえ、現場で働く者の気持ちも良く分かっているのです。今後は、もっと現場の声を上に届けられるように心がけていきたいですね。

とりに追いつきたい。そして追い抜けるように取り組みたいと思います。

自身の成長だけでなく、営業所の底上げを図りたいと考える犀川さん。恵まれた環境に、目指すべき上司の存在。これからも情熱を胸に挑み続ける犀川さんに、より一層の期待が寄せられます。

